

Ｊ・ハイ学び集

IN FRONT OF THE FIRE OF THE FIREPLACE

暖炉の火 の前で

4

金の器社

教者より

3度も日本を訪れる機会が与えられたのは、私にとって大きな特権でした。また、日本のみなさまのみことばに対する関心を見て、励まされました。

日本で語らせていただいた話の中から選ばれたいくつかがこの本にまとめられています。それらは様々な教えを含んでいます。あるものは私たちの愛する主イエス・キリストご自身について、あるものは地方集会についての教えです。また、現在を生きる私たちにとっての実践的な教えとなるよう、何人かの人物を取り上げました。新約聖書の一部を解き明かしたものもあります。

この本の読者にとって、これらの様々な主題を考えることによってその霊的生活が豊かにされますように祈りつつ、この本を送り出します。

2010年9月1日

ジャック・ヘイ

It has been a privilege for me to visit Japan on three occasions, and I was encouraged to see the interest in the Word of God. Some of the messages that I gave have been brought together into this book, and they provide a variety of teaching. Some relate to our beloved Lord Jesus Christ, and some to the local assembly. Others are character studies from which an attempt has been made to extract practical lessons for our lives today; some are expositions of New Testament passages. They are sent out with the prayer that the spiritual lives of the readers will be enriched as they consider these various issues.

Jack. Hay

目次

教者より

第一章	ナザレのヨセフ	7
第二章	イエスの母マリヤ	31
第三章	少年イエス	57
第四章	ザカリヤとエリサベツ	79
第五章	貧しくなられた主	87
第六章	主の忙しい一日	99
第七章	勝利の入城	115
第八章	信仰の優先順位	143
第九章	ぶどう園の労務者	169
第十章	少年ダニエル	193

第一章	ヨナの不従順	217
第二章	ヨナへの質問	237
第三章	ヨナの祈り	259
第四章	ハガイ書	283
第五章	ピリピ一章	307
第六章	ピリピ三章	329
第七章	ピリピ四章	355
第八章	聖い生活	381
第九章	長老たちよ	403
第十章	バプテスマ	425
第十一章	神の子	433

第一章 ナザレのヨセフ

二〇〇四年一月二四日（木） 山形にて

最初にマタイの福音書一章18節から25節をお読みします。

18と25節 イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。

夫のヨセフは正しい人であつて、彼女をさらし者にはしたくなかつたので、内密に去らせようと決めた。

彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現われて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないうあなたに妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。

マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救つてくださる方です。」

このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。

「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」（訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。）

ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

続いて二章13節から23節をお読みします。

13と23節　彼らが帰って行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨセフに現われて言った。

「立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を探し出して殺そうとしています。」

そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに立ちのき、ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した。」と言われた事が成就するためであった。

その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかると、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年令は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。

そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。

「ラマで声をする。

泣き、そして嘆き叫ぶ声。

ラケルがその子らのために泣いている。

ラケルは慰められることを拒んだ。

子らがもういないからだ。」

ヘロデが死ぬと、見よ、主の使いが、夢でエジプトにいるヨセフに現われて、言った。

「立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちをつけねらっていた人たちは死にました。」

そこで、彼は立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地にはいった。

しかし、アケラオが父ヘロデに代わってユダヤを治めていると聞いたので、そこに行つてとどまることを恐れた。そして、夢で戒めを受けたので、ガリラヤ地方に立ちのいた。

そして、ナザレという町に行つて住んだ。これは預言者たちを通して「この方はナザレ人と呼ばれる。」と言われた事が成就するためであつた。

二晩を通じて、ヨセフとマリヤについてお話したいと思います。今晚はヨセフについて学びます。そして明日の晩は、イエスの母であるマリヤを学びます。

聖書の中を見ると、ヨセフという名前を持っている人が何人かいます。一番有名なのは、創世記のヨセフでしょう。彼は私たちの主のすばらしい型です。ほかには使徒の働き一章に、バルサバのヨセフ、別名ユストが出てきます。今晚お話したいヨセフは、マリヤの夫であつたヨセフです。

ふたりのヨセフ

このヨセフが、イエス・キリストの誕生に関係して現れたのは興味深いことです。もうひとり、アリマタヤのヨセフという主イエスの葬りの時に現れたヨセフがいます。このアリマタヤのヨセフと、マリヤの夫であるヨセフとを比較してみましよう。

このふたりのヨセフは、ともに「正しい人」と記されています。このことは彼らの道徳

的な人格を示しています。ふたりともその記述は、聖書の中ではほんのわずかなものです。ふたりは自分たちのなすべき事を終えると、聖書から忽然と姿を消します。聖書の中には、そのように忽然と姿を消す人物がいます。アナニヤというパウロを助けた人物がいますが、彼もすぐに聖書から姿を消しています。ここから学べることは、神様は時に応じて、なすべき仕事の必要に備えて働く人を用意されるということです。私たちはそのことをよく覚えて、神の働きにあずかる準備をしていたら幸いです。有名な人になることを求めるのではなく、ヨセフと同様に、神がその働きを求めるときに、その準備ができていたなら幸いです。

マリヤの夫ヨセフと、アリマタヤのヨセフにはいくつかの対比があります。アリマタヤのヨセフは金持ちでした。聖書に主イエスは「金持ちの墓に葬られる」と預言されています。しかしマリヤの夫ヨセフは貧しい人でした。明日の晩にはマリヤを見たいのですが、同じようにマリヤも貧しい人でした。

アリマタヤのヨセフは議員でしたが、このヨセフは名もない大工でした。アリマタヤのヨセフはたいへん有名な町の出身でした。アリマタヤというのはユダヤの大きな町なのです。しかし大工のヨセフはナザレ出身でした。ナザレは人々から軽蔑されていた町です。